

科目区分：造形芸術コース

授業科目名：絵画課題研究Ⅱ・絵画課題研究Ⅳ（後学期）

絵画；描きたいものを描きたいように描くこと

美術教育講座 東慶太郎

1. 授業の概要

造形芸術コースでは、実技系4分野の中から任意の1分野の専門性を高めることを目的に、2・3回生を対象とした課題探究型授業を週1回（4コマ連続、前・後期）おこなっている。

本報告は、絵画を主たる研究分野とする学生に対しておこなったアンケート調査に基づいている。本年度後学期の学生数は課題研究Ⅱ（2回生）4名、課題研究Ⅳ（3回生）5名である。

2. アンケート結果（質問項目と回答）

1) この授業への自身の取り組みについて

■評価できる点

・作品を制作するにあたって、どのような構成になるのか、それを表現するにはどのような技法等の工夫が必要なのか、使用等を参考として考えた。また、日常において、面白いと思った造形物や風景などを記録できるようにスケッチブックを持ち歩いたり、カメラで撮ったりなどした。

・様々な美術書を見て、自作品の構想を練った。何を描くか真剣に考えた。

・何を描きたいかじっくり考えることができた。エスキースに時間をかけ、構図などを練ることができた。

・自己評価ではないが、取り組みとしては、今までしてこなかった油絵の技法また、その特性などを用いた作品を制作しようと試みた。

■反省点等

・一つの大きな画面に自身の表現したいものを描こうとした際、自身の技量に自信が無いため、なかなか踏み出すことができなかった。

・サークル活動との両立が難しかった。自主学習の時間が少ない。何を描くか考えても良いアイデアが出なかった。とりあえず手を動かすべきだった。

・課題研究としての自主研究（作品鑑賞・資料調査や文献講読など）が少なかった。

・制作に着手するのに時間がかかってしまった。何を描くか中々決まらず、ただ時間を浪費していたように感じる。日々、もっと自身の制作について考えるべきだった。

・制作の最中、自分が考えたテーマと描いている作品が大きくかけ離れることが多くあった。その大きな原因として、構想の段階で自分のイメージを掴みきれていないからだと思う。

・デッサン力と描写力は違くと前に先生が言っていました。頭では理解できるけど、どうしても描写に頼ってしまう。

2) この授業に関しておこなった時間外学習について

■具体的な内容

・資料等の講読（美術手帳・芸術新潮・画集・技法書等）

・アイデアスケッチ・デッサン・水彩画等（制作のためのエスキース）

・モチーフ探し・資料集め

・インターネットでの参考作品の検索

・図書館・美術館での作品鑑賞

・休日や空き時間を使った時間外制作

■週当たりの時間数

・12時間（1名）

・6～7時間（2名）

・5時間（1名）

・2時間程度（5名）

3) この授業内容についての感想（自主研究の問題点等）

・自主研究の問題点としては、作品制作に踏み切ることができず、構想の段階で止まっていることなどが挙げられる。また、描き出したとしても、これ以上進めた場合、画面の配色が狂うかも知れないと感じることが何度もあり、完成に至らなかったこともあった。そ

ういった問題を解決するため、極力、スケッチや油彩画の制作を重ねて自身の経験とし、次へと繋げていきたい。

- ・良いと思う。
 - ・時間がじゅうぶん与えられているにも関わらず制作が進まない自主研究への自分の姿勢が問題だと思えます。
 - ・問題点等は自分に関しては色々ありますが、授業内容については特にありません。時間外の制作時間もしっかりと、作品を完成させたいです。
 - ・もっと資料等を準備し、どういった作品にしたいのかしっかり考え、構成しなければと反省した。
 - ・最初のテーマから考えたイメージが掴みきれていないため、作品が他者からみれば描き初めと完成とまったく別物と思うかもしれない。今後はより作品制作に励み、完成を見通したイメージ掴みができるようになりたいと思う。
 - ・気がつく自分の世界に入り込んで自己満足で終わっているふしがあるので客観的に見る必要があるなと思いました。
 - ・何をどういう風に描きたいのかを考えられるほど絵画がまだ自分のものじゃないというか、「描くのが楽しい」だけから抜け出すのが必要なのかな・・・と考えました。
- 上手く言葉にできないのですが・・・
- 「絵」について考える時間をもっと作ることが大切だと思いました。
- ・好きな絵を描くことができる点は良いと思います。全て自分に委ねられ、何を描くのも、どう描くのも自由なので、自分の考えをしっかりとまとめて取り組まないと、フワフワした考えのままダラダラ時間を過ごしてしまうので、その点に気をつけて、気を引き締めないといけないなと思いました。
 - ・反省点が多く、もっと自分に厳しく、危機感を持って取り組まなければならないと感じた。具体的には、時間を計画的に使い、密度の濃い制作をすると共に、枚数をこなしていきたい。エスキースに力を入れて、しっかりした構図をつくりたい。絵を完成させるためにはどうすればいいのか、常に頭で考えておきたい。また、絵が自立するためには何が必要なのか、どう描くべきなのか、描写に頼らない描き方をするにはどうすればいいのか考えたい。

3. 総括

「自分の描きたいように描く授業」などという、好きなように描くのならそんな簡単なことはない、それは授業ではない、と言う人がいるかもしれない。しかし、自分の描くべき題材やテーマを絞り込み、それを自分の意図に沿って造形化することはそれほど容易ではない。「好きなように描く」というのは、何を描きたいのか、どのように描きたいのかを自ら考え、実践することであって、たとえば、いきなり町中に放り出されて「どこへでも行きたい所へ行け」と言われるような、不安と緊張に満ちた、主体的な実践力が求められる活動なのである。技術上の困難さはあっても、何をどう描くかを教示され、それに従う方がよほど容易である。もし、好きなように描けるのが楽しいと言う学生がいたら、それは描くことの意味や目的を考えない単なる初心者であろう。

受講生がおのおの独自の制作課題を設定し、作品の完成に至るまでのプロセスを孤独に探究するこの授業は、彼らが、将来、自分ひとりの力で制作活動をおこなってゆく際の貴重な糧（経験）となるはずである。

4. 「授業時間外学習の促進」について

3. で述べたように、本授業は、学生が自ら選択した特定分野の課題探究力を高めることを目的としたものであり、そこでは、制作に対する熱意・関心・こだわり等が日常的に求められている。実際の授業時間とは関係なく絶えずおこなわれるべき作品に関する思索やエスキースの積み重ねは、オリジナルな作品づくりに欠かすことのできない必須の要件であり、本授業の要諦である。

以上の理由から、これまで「時間外学習」ということばで学生に向けて語ったことも、それを促すための特別な指導もおこなったことはない。エスキース等によって制作との関わりを日々深めることは、時間外学習という言葉が奇妙に聞こえるほどあまりに当然のことであり、しかもそこで追究されるのは、おのおの個別の内容であって、指導する立場とは言え、他者が立ち入ることのできない領域（各自が抱える問題意識）だからである。